

9月月例労働経済報告のポイント

一般経済

- 景気は、このところ弱含んでいる。
 - ・ 輸出は、弱含んでいる。生産は、緩やかに減少している。
 - ・ 企業収益は、減少している。設備投資は、弱含んでいる。
 - ・ 雇用情勢は、厳しさが残るなかで、このところ弱含んでいる。
 - ・ 個人消費は、おおむね横ばいとなっている。

- 先行きについては、当面、弱い動きが続くとみられる。ただし、アメリカにおける金融不安の高まりや株式・為替市場の変動などから、景気がさらに下振れするリスクが存在することに留意する必要がある。

労働経済

- 労働経済面をみると、雇用情勢は、厳しさが残るなかで、このところ弱含んでいる。
 - ・ 7月の完全失業率（季節調整値）は4.0%で、2ヶ月ぶりに前月差で低下（0.1ポイント低下）。
 - ・ 労働力人口（原数値）は6,662万人で、6ヶ月連続で前年同月差で減少（29万人減）。
 - ・ 就業者数（原数値）は6,406万人で、6ヶ月連続で前年同月差で減少（52万人減）。
 - ・ 雇用者数（原数値）は5,524万人で、3ヶ月ぶりに前年同月差で減少（11万人減）。
 - ・ 有効求人倍率（季節調整値）は、0.89倍（前月差0.02ポイント低下）。
 - ・ 新規求人倍率（季節調整値）は、1.28倍（前月差0.02ポイント上昇）。
 - ・ 現金給与総額（原数値・確報）は388,095円で、前年同月比0.3%増。